

# 100年 先を読む

45

## 長寿企業を 実現させた 精神

### 長寿企業の王国・日本

フランスのバリエで1981年にエノキアン協会という組織が創設された。18世紀中期にボルドーで起業したリキュール製造会社マリー・ブリザールの当主が提唱し、創業以来200年以上の歴史があり、現在でも創業一族の子孫が筆頭株主として経営している老舗企業の交流を目的とした組織である。エノキアンとは『旧約聖書』に登場するアダムの子孫エノクに由来する名前で、365歳まで生存したことから、歴史・伝統・繁栄を象徴する人物とされている。

当初はヨーロッパに存在する10社で出発したが、次第に増加し、現在では49社が会員になっている。それらを国別に分類すると興味ある状況が浮上する。フランスの会社が提唱したためフランスの会社が15社で1位、イタリアが11社で2位であるのは納得できるが、3位に日本の10社が登場する。さらに創業の年代では718年に創業した「法師」という北陸の粟津温泉にある旅館が最古で、2位のドイツの金属加工会社コアテックの1502年創業とは大差の歴史である。

エノキアン協会には加盟していないが、世界最古の企業も日本に存在する。現在では高松建設の傘下になっているが、578年創業の「金剛組」という大工の集団で、難波の四天王寺を建設した組織である。韓国銀行が2008年に発表した世界の創業200年以上の企業の調査結果も日本の歴史を象徴している。5586社のうち日本が3146社で56%、2位のドイツは837社（15%）、以下、オランダが222

社（4%）、フランスが196社（3%）で、残念ながら韓国には存在しなかった。

### 長寿企業の維持の要件

日本に長寿企業が集中している第一の理由は国土全体に波及する戦火が存在しなかったことである。ヨーロッパの歴史年表を一瞥すると、過去3000年間に無数と表現できるほどの戦争が発生して国土を荒廃させたが、日本は天下を二分した関



ヶ原の合戦でも戦場は国土の一部であり、全国を荒廃させることはなかった。第二の理由は企業内部に暴行や投機を抑制する行動理念が存在し、破綻を防止する仕組みが維持されてきたことである。以下に事例を紹介したい。

前述の「金剛組」は578年に朝鮮半島の百済から招聘された3人の大工の1人である金剛重光を始祖とする。金剛は聖徳太子が勧進した四天王寺を造営してから、そのまま日本に残留して金剛組を設立、数多くの神社仏閣を建立してきた。その家訓には、大酒の飲酒や華美な服装の禁止など一般の行動規範も記載されているが、入札においては相場を留意して廉価で正直な見積もりを提出することなどを指示している。これが1400年以上も継続できた背景である。

世界第二の長寿企業の旅館「法師」は天平時代に霊峰白山を開山した泰澄大師に由来する由緒がある。大師が開山のため白山に登山するときの道案内役をした笹切の源五郎の次男が大師の弟子として雅亮法師となったが、大師が粟津温泉を発見したとき、雅亮法師に旅人のための宿坊を開設させたのが発端である。この宿坊の運営は一種の修



行であり、理念は禅語の主客一如である。運営する主人と利用する客人の気持ちが一体となるように維持するという精神である。

東京都心の赤坂御所の対面に和菓子店「虎屋」の本店がある。奈良時代に起源があるとの口伝もあるが、エノキアン協会では室町時代に京都で創業と登録されており、それでも500年近い歴史のある老舗である。室町時代の起草とされる掟書が保存されているが、食品が商品であるから衛生管理への注意、商売であるから顧客本位の精神の喚起などは当然として、店員からの提案の奨励、店員が日常に満足する処遇など、「三方よし」の精神も記載されている。

過去15年間で日本の中小企業は470万社から360万社に減少している。廃業した110万社の40%は資産超過で経常赤字での決断である。主要な理由は経営者本人や家族の意欲、継承者の不在などである。世界が工業社会から情報社会へとという数百年間に一度の巨大な大波により翻弄されていることは否定できないが、これまで何度も襲来した荒波を突破してきた企業が日本には5500以上も存在し、すべてが中小企業である。難関を突破していただくことを期待したい。



東京大学名誉教授

つきおよしお  
**月尾嘉男**  
Tsukio Yoshio

昭和17（1942）年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら私塾を主宰し、地域の有志と共に環境保護や地域計画に取り組む。著書に『幸福実感社会への転進』（モロロジー研究所）、「転換日本」（東京大学出版会）ほか多数。